



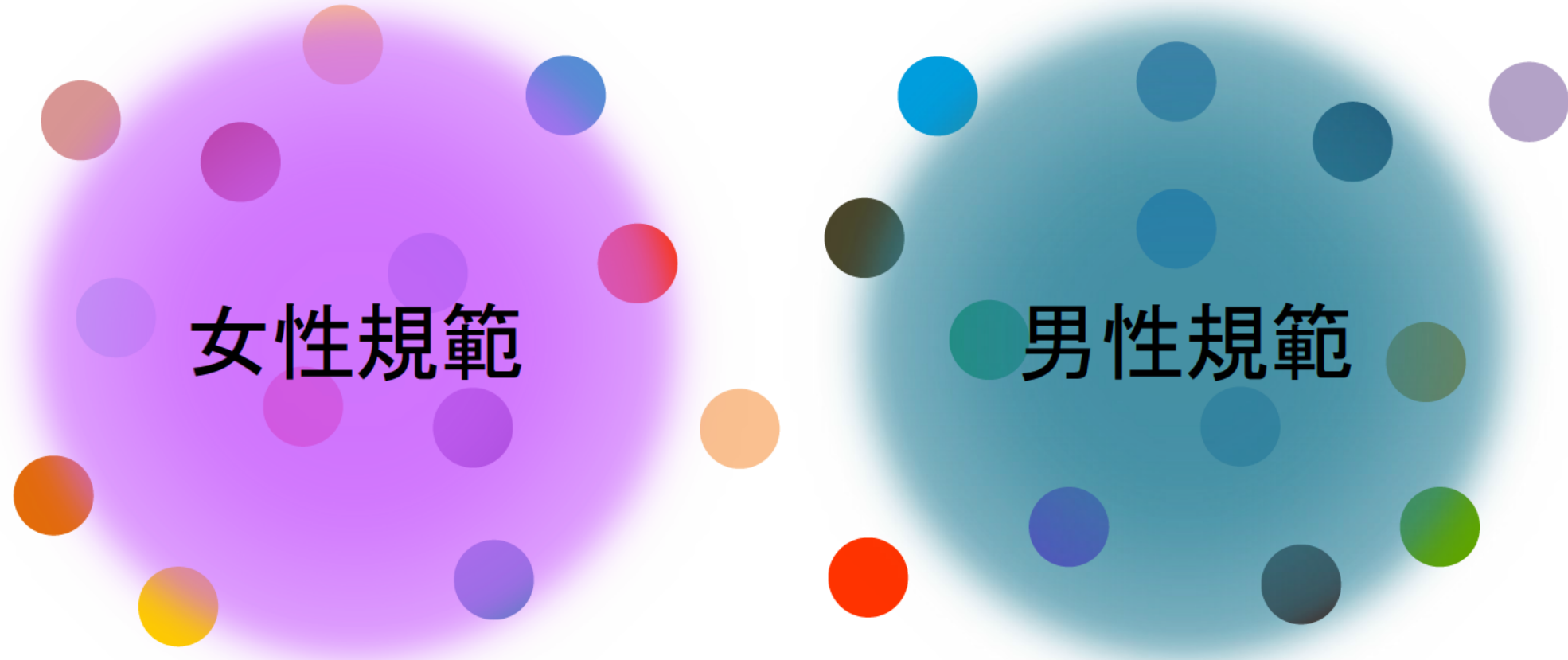
セクシュアル・マイノリティの 孤独・孤立とジェンダー

一般社団法人SOGIE相談・社会福祉全国協議会 安間優希

私たちの相談事業の対象は誰か？

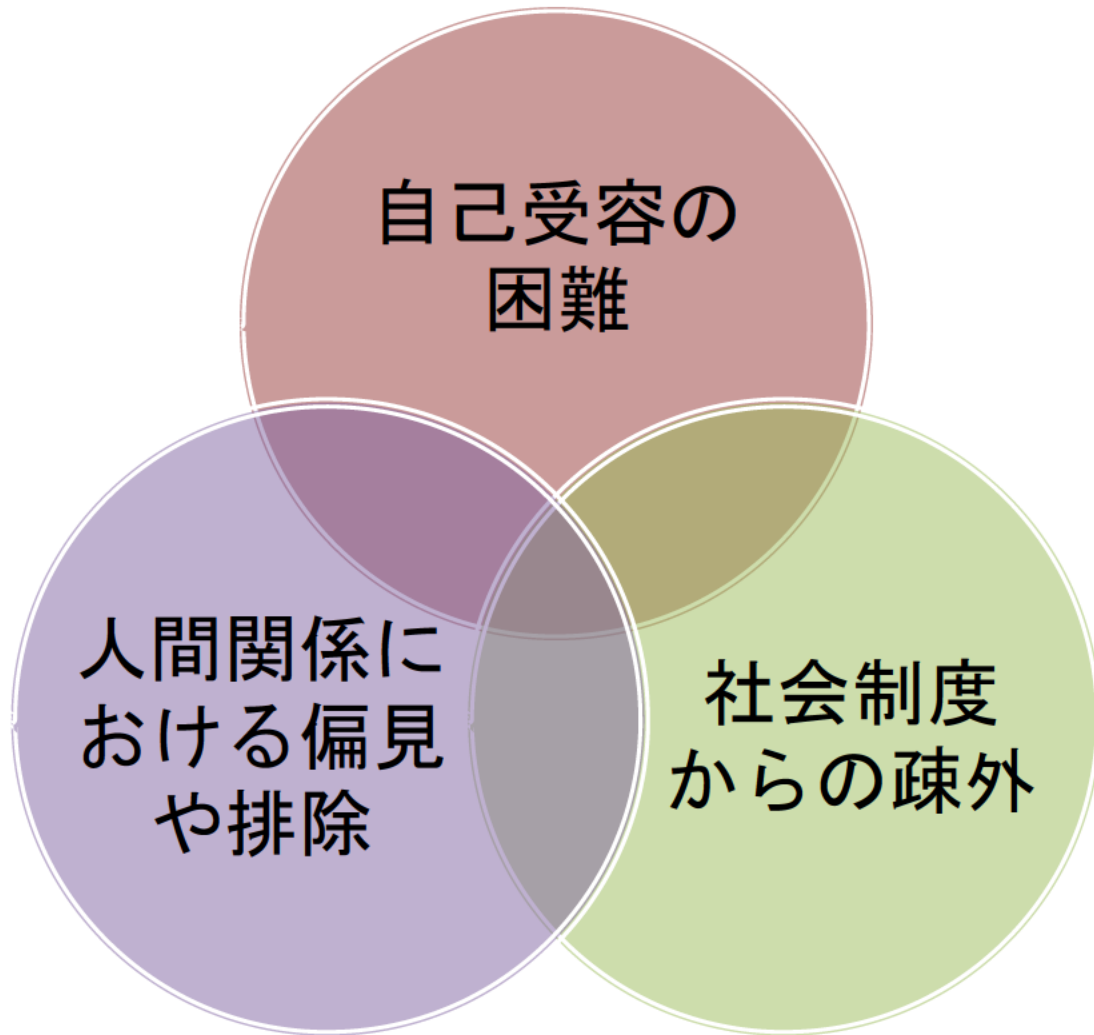
- 性的指向・性自認・性別表現（SOGIE）についての相談事業を実施。相談者は、「自分がセクシュアル・マイノリティだ」というアイデンティティを持っている人もいれば、「自分はそうではない」「わからない」という人もいる。
- セクシュアル・マイノリティか否かは、明確な区別があるわけではなく、「異性愛でシスジェンダー」という社会によってつくられた典型的なジェンダー規範に当てはまるかどうかという社会的問題。

私たちの相談事業の対象は誰か？



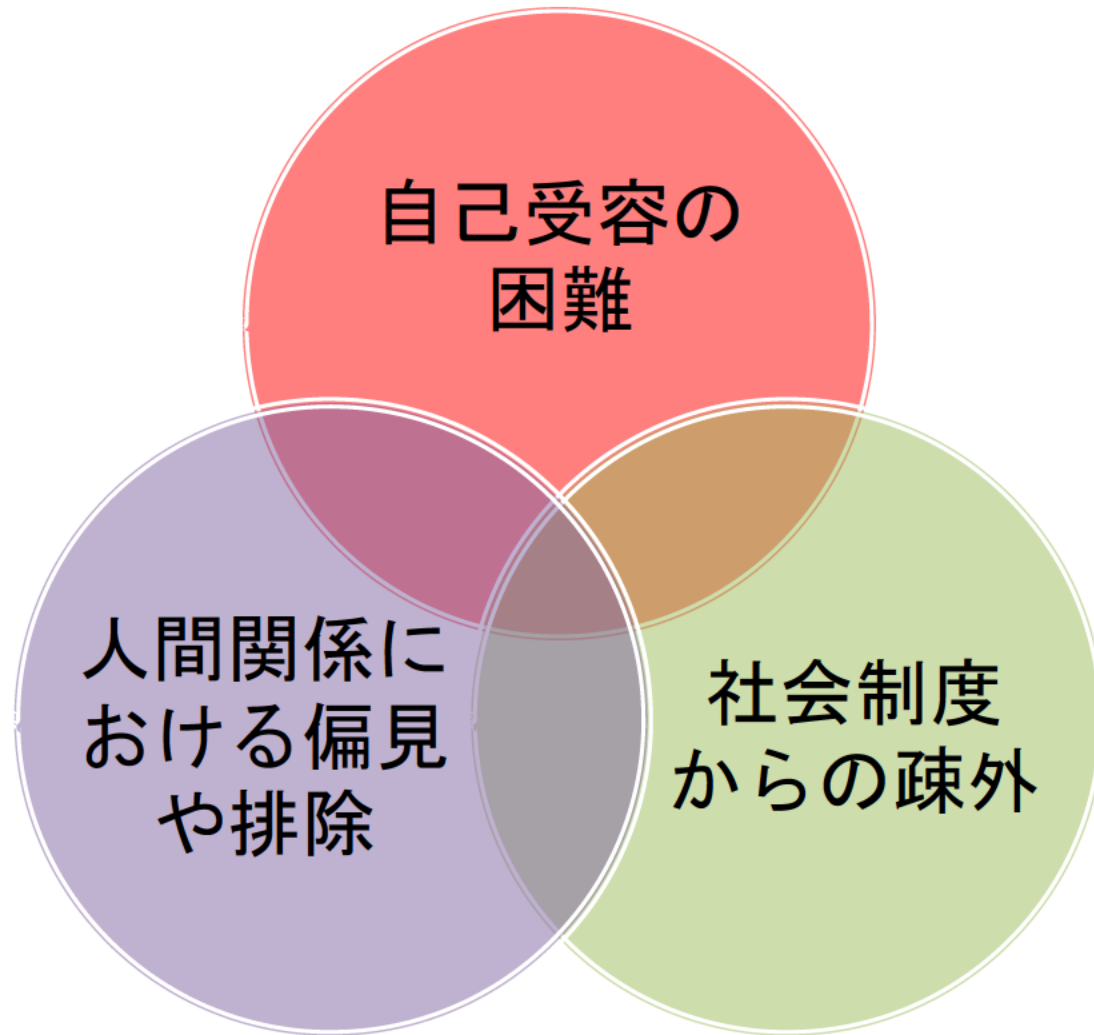
セクシュアル・マイノリティは「らしさ」から自由なのか？

セクシュアル・マイノリティの生きづらさと社会的孤立



セクシュアル・マイノリティの生きづらさと社会的孤立

自己受容の困難

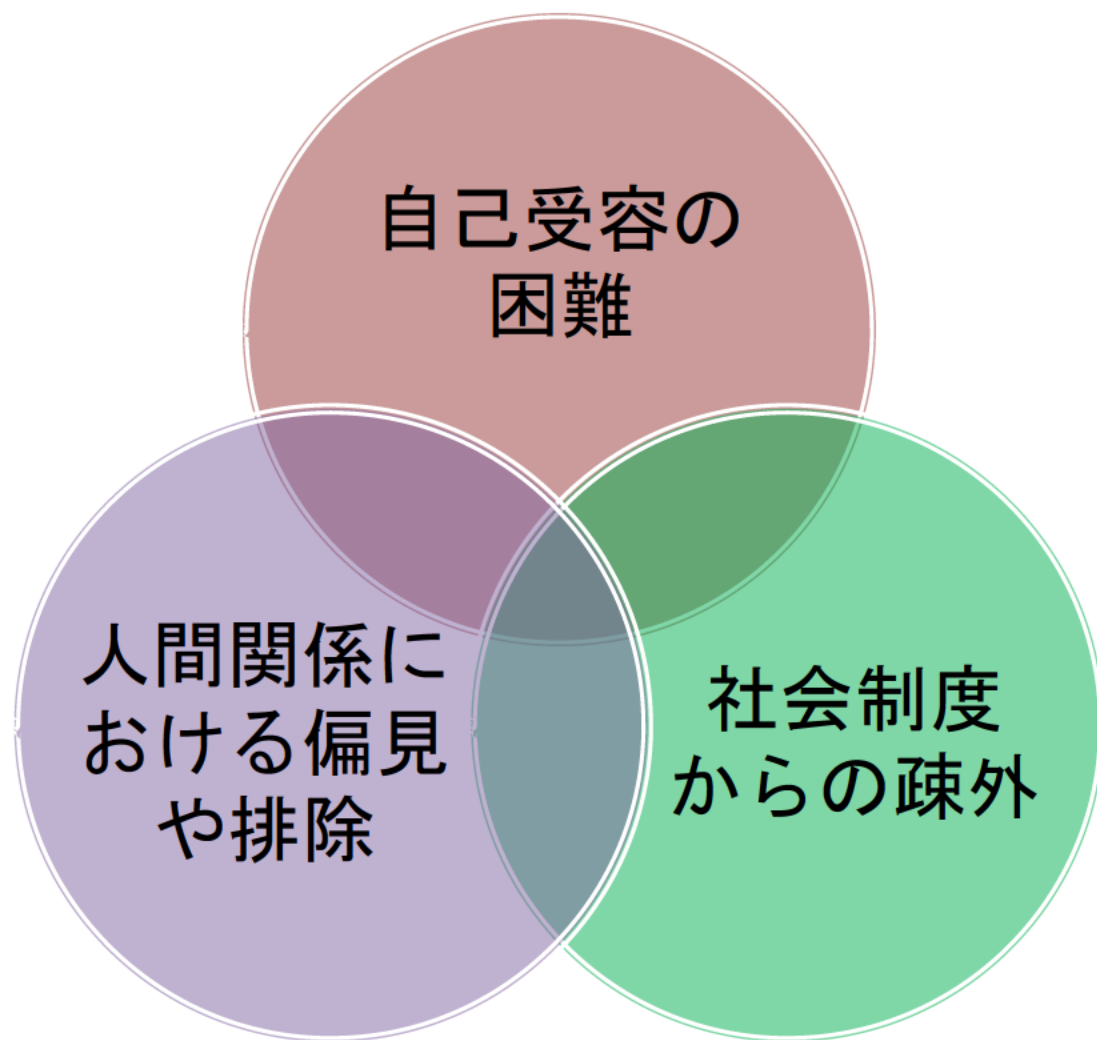


- 学校や家庭で、直接・間接に
うける否定的経験の積み重ね
→ 自分を受け入れられず、周囲
にも相談できない
- いじめ・アウティング等の差別
を受けた経験
→ ありのままの自分を隠すこと
で自分を守る

セクシュアル・マイノリティの生きづらさと社会的孤立

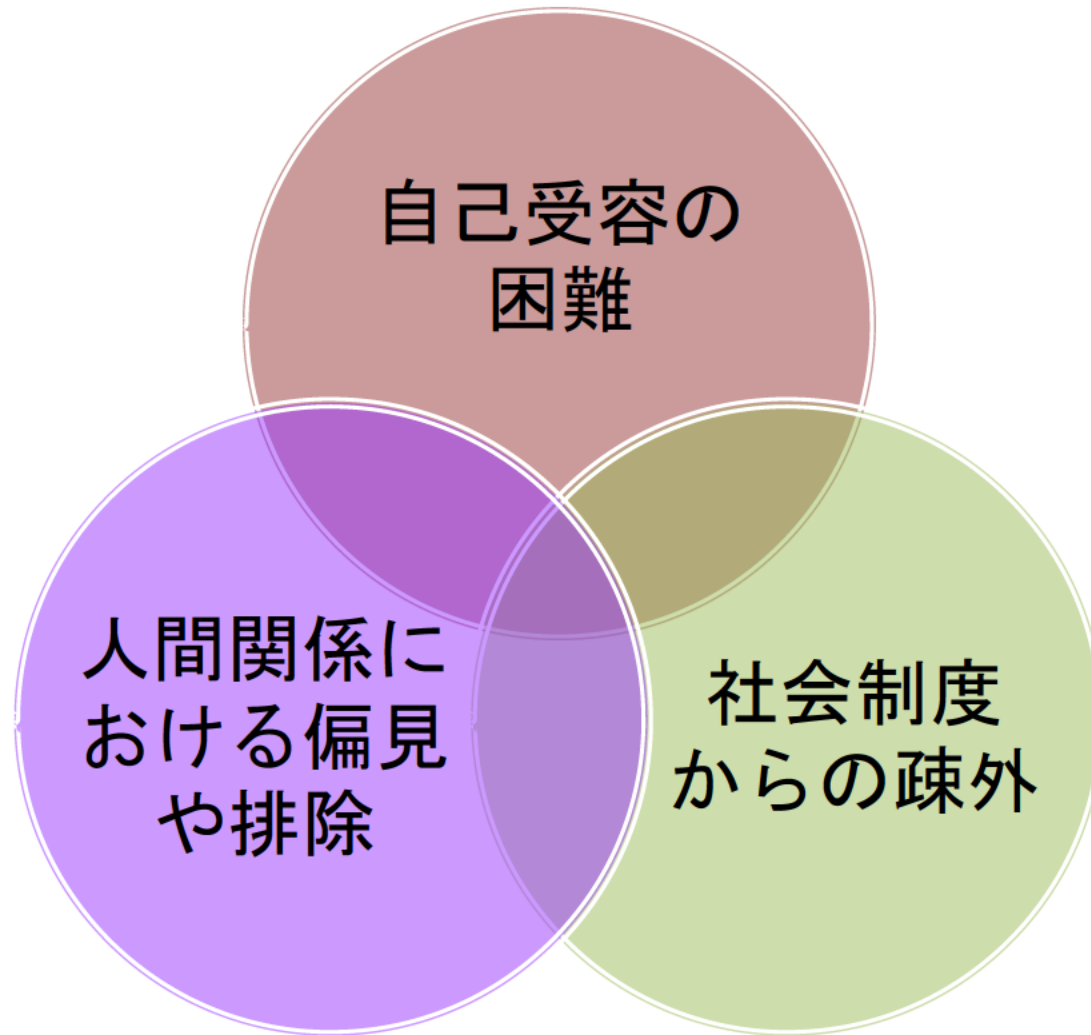
社会制度からの疎外

- 同性間で結婚できない婚姻制度の不平等
→ 長期的なライフプランを描きにくい
- 要件が厳しく、戸籍の性別を変更できない
→ 就労をはじめ、社会生活のあらゆる場面で困難を抱える



セクシュアル・マイノリティの生きづらさと社会的孤立

人間関係における偏見や排除



- 職場で経験するSOGIハラスメント
→ ストレスがかかり続ける職場で、長く仕事を続けづらい
- 日常的なマイクロアグレッションやSNS等でのヘイトスピーチ

【事例】女性として働いているが、息苦しい

- ・（50代・トランス女性）
- ・子どもの頃から女性になりたいという気持ちを持ち続けてきたが、15年ほど前に手術をし、現在は戸籍上も女性だ。当時勤めていた職場でカミングアウトし、女性として働くことができたが、自分のことを指して「彼」と呼ばれるなどが続き、働きづらく、やめてしまった。
- ・その後、女性として就職して、カミングアウトせず働いていたが、女性同士の会話になじめず、隠していることが苦しくなり、一人の女性社員にカミングアウトした。受け入れてくれたが、その後、ことあるたびに「〇〇さんは女性より女性らしいわね」などと言われ、結局その仕事もやめてしまった。
- ・現在は、食品工場でアルバイトをしている。今回は同じ失敗をしないようにとカミングアウトはしていないが、やはり息苦しい気持ちになることもある。ありのままの自分で働けたら、と思う。

セクシュアル・マイノリティは、「らしさ」から自由か？

- 経済的ジェンダー格差のもとで、貧困に陥りやすい
- 性的搾取や暴力の被害を受けやすい

- 仕事以外の社会関係が狭く、地域で孤立しがち
- 「稼ぎ手」としての役割意識にしばられる

「典型的な男女」ではないとしても、ジェンダーにもとづく社会的不利益を、より強く被っている

【事例】彼女のことは好きだが、息苦しい

- ・（30代・レズビアン女性）
- ・インターネットで知り合った年上の女性と暮らすために、半年前に地方から引っ越してきた。最初に働いた居酒屋がブラックな職場で、体調を崩してしまい、3か月で辞めてしまった。なかなか次の仕事が決まらなかったが、ようやく工場の仕事が見つかり、先週から働きだしたところ。彼女もパートで働いているが、仕事よりも家にいたいようだ。自分も養ってあげたいと思うが、社会的には女性なので限界もある。
- ・仕事を探していた時期に、レズビアンの友人に相談するために頻繁にラインをしていたところ、浮気をしていると誤解されてしまった。誤解だと説明したが、彼女から激しく責められてしまい、結局、友達のラインは、全部消されてしまった。それ以来、ケンカも増えてしまった。彼女のことは好きだが、正直、息苦しく感じることもある。しかし、引っ越すお金もないため、仕方がないと思っている。